

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ○ 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、他者を思いやることにより、全体で虹の架かる学校 ○ 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校 ○ 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校 【生徒に育みたい力】 ○ 強靱な知性 ・みずみずしい感性・品格ある人間性 - 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等） - 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等） - 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等） - 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

1 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進 （1）生徒のもつ学力を最大限に引き出すための取組 ア 確かな学力の充実と授業力の向上 効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、新学習指導要領、高大接続改革に対応するため、1人1台端末や学習支援クラウドサービスの活用を含めた、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 ＊授業アンケート項目8「内容に興味・関心が持てた」9「知識や技能が身についた」の平均点（R5：3.39 R6：3.44 R7：3.47/4点満点）を令和10年度まで3.4以上を継続する。 ＊生徒向け学校教育自己診断のICT活用に対する満足度（R5：73% R6：85% R7：96%）を令和10年度まで80%以上を継続する。 イ 講習・補習の充実と進路実現 放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容を充実させ、進路実現に向けた指導を行う。 ＊生徒向け学校教育自己診断の「土曜日や長期休業中等の講習や補習は、自分の学力向上や希望進路の実現に役立っている」の肯定率〔R7：85%〕を令和10年度まで80%以上を継続する。 ＊難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生＋既卒生／R5：71人 R6：72人 R7：51人）を、令和10年度までに80人以上とする。 ＊国公立大学への現役生の合格者数（R5：172人 R6：195人 R7：133人）を令和10年度まで170人以上を継続する。 ウ 英語運用能力の向上 英語での授業を基本としつつ、海外オンライン交流会や外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める。 ＊KITEC（ネイティブスピーカーの方々を多数招聘し、少人数に分かれて一日英語漬けで会話能力の向上をめざす企画）を実施し、「英語に対する興味・関心、運用能力が向上した」と回答した生徒の割合（R5：97% R6：95.7% R7：96.2%）を令和10年度まで95%以上を継続する。 ＊語学交流事業GULSの生徒満足度（R5：93% R6：100% R7：100%）を令和10年度まで90%以上を継続する。 （2）生徒の科学的素養の拡大・定着と探究心の向上 ア 文理学科「課題研究」（文系・理系・文理融合）の内容のさらなる充実 「課題研究」を全校体制かつより主体的に取り組ませ、さらなる充実をはかる。 ＊2年生の「課題研究」に対する主体性と意欲をさらに高め、SSHアンケートにおける生徒満足度（興味・関心・意欲）を令和10年度まで80%以上を継続する。（R5：89% R6：88% R7：79%） イ 創造探究事業（大学や企業・研究機関との連携）のさらなる充実 本校独自の事業の他、他の団体等の事業への生徒の参加を促し、幅広い能力の向上を図る。 ＊創造探究事業への延べ参加人数（R5：1,965人 R6：2,004人 R7：1,922人）について、令和10年度まで1,500人以上を継続する。 ウ 海外の学校等との交流のさらなる充実 海外の学校等との共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる。 ＊令和10年度まで、海外との交流を（R5：5日 R6：5日 R7：5日）年4日以上、参加生徒の満足度（R5：89% R6：86% R7：95%）85%以上を継続する。 （3）進路指導のさらなる充実 ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実 ・1年生は、望ましい職業観・勤労観を育成し、進路意識を向上させる。 ・2年生は、大学における学問・研究に対する理解促進、進路意識を向上させる。 ＊体験型進路学習に対する生徒の満足度（R5：97% R6：97% R7：94.4%）を令和10年度まで90%以上を継続する。 イ 3年間を見据えたキャリア教育の充実 ・本校進路指導方針「高津進路プログラム：KSP」に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する。 ＊学校教育自己診断の進路指導への満足度（生徒R5：95% R6：93% R7：95%・保護者R5：85% R6：88% R7：89%）を、令和10年度までともに85%以上を継続する。 2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立 （1）人権尊重と社会参加力の育成 HR等において、人権講演会等を開催し、人権を尊重し、社会への参加の意識を醸成する。 ＊学校教育自己診断の人権に関する指導に対する肯定率（生徒R5：89% R6：90% R7：92%・保護者R5：85% R6：87% R7：88%）を令和10年度まで生徒・保護者とも85%以上を継続する。 ＊部活動生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（R5：100% R6：100% R7：100%）を令和10年度まで90%以上を継続する。 （2）自主的活動と規律・規範意識の向上 部活動・自治会活動など生徒の自主的な活動を支援する。生徒の規律を重んじ規範を守る心を育てる。記念祭（体育祭・文化祭）をさらに活性化する。 ＊部活動加入率（R5：85% R6：83% R7：79%）を、令和10年度まで85%以上を継続する。 ＊生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（R5：70% R6：85% R7：88%）を令和10年度まで80%以上を継続する。 ＊記念祭の満足度（R5：体育祭98%文化祭96% R6：体育祭96%文化祭97% R7：体育祭95%文化祭97%）を令和10年度まで95%を継続する。 ＊年間の遅刻者総数（R5：2,076件 R6：1,897件 R7：1,765件）を令和10年度までに1,500件以下とする。（起立性障がい等の生徒遅刻を除く） （3）安心で安全な学校環境の充実 保健室・相談室などの生徒に対する心身の健康を維持する環境を充実させる。 ＊生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く／R5：91% R6：90% R7：96%）を令和10年度まで90%以上を継続する。 ＊保護者の学校への相談に対する満足度（「わからない」を除く／R5：87% R6：89% R7：90%）を令和10年度まで90%以上を継続する。

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有

各分掌・教科等の連携を円滑にするとともに、教職員の学校運営への積極的な参加・参画意識を促進する。
*教員向け学校教育自己診断の「各分掌や学年・教科等の円滑な連携等」の肯定的意見（R5:63% R6:75% R7:79%）を令和10年度までに80%以上にする。

(2) 開かれた学校づくりの推進

本校の教育活動について、学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする。また、中学校や大学など他校種との連携を行う。
*教員向け学校教育自己診断の「教育活動を中学生や保護者に積極的にアピールできている」の肯定率（R5:94% R6:98% R7:92%）を令和10年度まで90%以上を継続する。

(3) 教員の資質向上とミドルリーダーの育成

・教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。
・ミドルリーダー育成に向け、時機をとらえた研修等、学習機会の機会を設ける。
*生徒向け授業アンケートの全項目平均値（R5:3.40 R6:3.43 R7:3.45）を令和10年度まで3.4以上を継続する。
*教員向け学校教育自己診断の「(校内研修など)学習機会の提供」に関する肯定率（R5:82% R6:75% R7:87%）令和10年度までに80%以上にする。
*教員向け学校教育自己診断の「ミドルリーダー育成」に関する肯定率（R5:78% R6:77% R7:70%）を令和10年度までに80%以上にする。

(4) 「働き方改革」の推進

・ゆとり週間・月間の徹底に取組み年休取得を促進し、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。
・ICTを活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、「働き方改革」を推進する。
*教育職員一人あたりの時間外在校等時間について、令和10年度までにR7年度比6%以上削減する。[R7:35時間42分(2月末現在)]
*年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員[R7:6名]をゼロにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進	(1)生徒のもつ学力を最大限に引き出すための取組 ア 確かな学力の充実と授業力の向上	(1) ア・効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、新学習指導要領、高大接続改革に対応するため、1人1台端末や学習支援クラウドサービスの活用を含めた、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。	(1) ア・教職員向け学校教育自己診断の「さらなる指導技術の向上」に関する項目の肯定率[92%]を90%以上で維持する。 ・授業力アンケート項目8「内容に興味・関心が持てた」9「知識や技能が身についた」の平均点[3.47/4点満点]を3.4以上とする。 ・生徒向け学校教育自己診断のICT活用に対する満足度[96%]を、80%以上とする。	
	イ 講習・補習の充実と進路実現	イ・放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容を充実させ、進路実現に向けた指導を行う。	イ・生徒向け学校教育自己診断の「土曜日や長期休業中等の講習や補習は、自分の学力向上や希望進路の実現に役立っている」の肯定率[85%]を80%以上とする。 ・難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生+既卒生）[○人]を75人以上とする。 ・国公立大学への現役生の合格者数[○人]を170人以上とする。	
	ウ 英語運用能力（4技能）の向上	ウ・英語での授業を基本としつつ、海外オンライン交流会や外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める。	ウ・KITECを通して、英語運用能力が向上したと回答した生徒の割合[96.2%]を95%以上とする。 ・語学交流事業GULSの生徒満足度[100%]を90%以上とする。	
	(2)生徒の科学的素養の拡大・定着の探究心の向上 ア. 文理学科「課題探究」(文系・理系・文理融合)のさらなる充実	(2) ア 「課題研究」を全校体制で主体的に取り組ませ、さらなる充実をはかる。	(2) ア・2年生の「課題研究」に対する主体性と意欲をさらに高め、SSHアンケートにおける生徒満足度（興味・関心・意欲）[79%]を80%以上とする。 イ・創造探究事業への延べ参加人数[1,922人]を	

府立高津高等学校

	イ・創造探究事業のさらなる充実 ウ．海外の学校等との交流のさらなる充実 （３）進路指導のさらなる充実 ア・自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実 イ．３年間を見据えたキャリア教育の充実	イ・本校独自の事業の他、他の団体等の事業への生徒の参加を促し、幅広い能力の向上を図る ウ・海外の学校等との共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる。 （３） ア　１年生は、望ましい職業観・勤労観を育成し、進路意識を向上させる。２年生は、大学における学問・研究に対する理解を促進し、進路意識を向上させる。 イ　本校進路指導方針「高津進路プログラム：K S P」に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する。	1, 500 人以上とする。 ウ・海外の学校等との交流〔５日〕を年４日以上行い、参加生徒の満足度〔95%〕を 85%以上とする。 （３） ア・体験型進路学習（職場訪問・研究室訪問の平均）に対する生徒の満足度〔96. 2%〕を 90%以上とする。 イ　学校教育自己診断の進路指導への満足度〔生徒 95%・保護者 89%〕を 85%以上とする。	
２ スクールアイデンティティに基づき、豊かな心の育みと規律・規範の確立	（１）人権尊重と社会参加力の育成 （２）自主的活動と規律・規範意識の向上 （３）安心して安全な学校環境の充実	（１）H R 等において、人権講演会等を開催し、人権を尊重し、社会への参加の意識を醸成する。 （２）部活動・自治会活動など生徒の自主的な活動を支援する。生徒の規律を重んじ規範を守る心を育てる。記念祭（体育祭・文化祭）をさらに活性化する。 （３）保健室・相談室などの生徒に対する心身の健康を維持する環境を充実させる。	（１）・学校教育自己診断の人権に関する指導に対する肯定率〔生徒 92%・保護者 88%〕をともに 85%以上とする。 ・部活動生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率〔100%〕を 100%とする。 （２）部活動加入率〔79%〕を 85%以上に、自治活動に関する肯定率〔88%〕を 80%以上に、記念祭の満足度〔体育祭 95%・文化祭 96%〕を 95%以上とする。遅刻者数〔1, 765 件（２月末現在）〕を 1, 700 件以下とする。（起立性障がい等の生徒遅刻を除く） （３）生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度〔96%〕、同保護者の満足度〔90%〕を 90%以上とする（「わからない」を除く）。	
３ 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立	（１）学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有 （２）開かれた学校づくりの推進 （３）教員の資質向上とミドルリーダーの育成 （４）「働き方改革」の推進	（１）各分掌・教科等の連携を円滑にするとともに、教職員の学校運営への積極的な参加・参画意識を促進する。 （２）本校の教育活動について、学校説明会や学校H P等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする。また、中学校や大学など他校種との連携を行う。 （３）・教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。 ・ミドルリーダー育成に向け、機会をとらえた研修等、学習機会の機会を設ける。 （４）ア　ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、「働き方改革」を推進する。 イ　ゆとり週間・月間の徹底に取組み年休取得を促進し、教育職員の時間外在校等時間の縮減を図る。	（１）教員向け学校教育自己診断の「各分掌や学年・教科等の円滑な連携等」の肯定的意見〔79%〕を 75%以上、「学校運営に積極的に参加・参画している」の肯定率〔88%〕を 80%以上とする。 （２）教員向け学校教育自己診断の「教育活動を中学生や保護者に積極的にアピールできている」の肯定率〔92%〕を 90%以上とする。 （３）生徒向け授業アンケートの全項目平均値〔3. 45〕を 3. 4 以上とする。 ・教員向け学校教育自己診断の「（校内研修など）学習機会の提供」に関する肯定率〔87%〕を 80%以上、「ミドルリーダー育成」に関する肯定率〔70%〕を 80%以上とする。 （４）ア　年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員〔6名〕をゼロにする。 イ　教育職員一人あたりの時間外在校等時間について、前年度〔35 時間 42 分（2月末現在）〕より2%以上削減する。	